

日本手話を活用した聴覚障害児者支援の実践			
担当教員	中野聡子	対象年次	3年次～4年次
科目分野	【共同教育学部】総合教職科目	開講回数	15
授業形式	演習・実習	単位数	2

授業の目的

聴覚障害児の豊かな言語をはぐくむ指導では、目的や内容に応じた言語やモードの使い分けや組み合わせと、聴覚障害児が深いレベルで理解できる伝え方や表現が重要な鍵となる。本講義では、教育／コミュニケーション支援場面において、聴覚障害児・者の年齢や認知・言語発達段階、言語運用力、社会言語文化的背景を考慮した日本手話使用の実践力を磨く。

授業の到達目標

- 指導目的・内容に適した日本手話、手指日本語、口話、音声、視覚資料の選択及び組み合わせができる
- 概念や要点を正確かつわかりやすく伝える手話表現ができる
- 年齢や認知・言語発達段階、言語運用力を考慮した手話表現を考えることができる
- 日本手話と日本語の言語特性の違いや社会言語文化的背景の違いを考慮した手話表現とコミュニケーションができる

ディプロマポリシーとの関連(評価の観点)

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ー
- B：論理的・創造的思考力 ○
- C：コミュニケーション能力 ◎
- D：社会的倫理観・国際性 ー
- E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ー
- F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
- G：教科・教育課程に関する知識と技能 ◎
- H：学校教育に関するさまざまな課題 ○
- I：他者との協働 ー

(◎：特に重視する ○：重視する △：評価対象 ー：評価対象としない)

授業概要

授業スケジュールに従って、各回の授業で提示された課題について、手話表現の検討、模擬授業、手話通訳、ケース検討等を行う。当該分野における専門知識をもつ外部講師が授業を担当することもある。

授業スケジュール

■順序や内容は変更となることがある。

1. 手話による絵本の読み聞かせ（1）
2. 手話による絵本の読み聞かせ（2）
3. 言語・文化の違いをふまえた手話通訳（1）
4. 言語・文化の違いをふまえた手話通訳（2）
5. 日本手話を活用したろう学校小学部の国語授業
6. 日本手話を活用したろう学校小学部の算数授業
7. 日本手話を活用したろう学校小学部の理科授業
8. 自立活動における手話の活用

この他、学生自身が受入れ先と日程調整を行い、以下の2施設の両方で現場体験実習を行うこと。
実習の行い方や計画書・報告書の作成については、前期授業開始時に説明をする。

■群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ（6時間以上）

■NPO 法人きらきら（6時間以上）

授業時間外学修情報

■授業時間外に取り組む宿題を課す場合がある。

■手話通訳の資格取得を目指す学生には希望に応じて、授業外の指導を行っている。詳細は主担当教員まで問い合わせること。

■聴覚障害児・者（ろう重複児・者を含む）とのコミュニケーションを持てるボランティアやイベント等への積極的な参加を推奨する。

成績評価基準(授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

■出席の確認は毎回授業終了後に提出されたリアクションペーパーで行う。リアクションペーパーの提出期限は授業翌日の昼 12:00 とする。

■公欠の対象となる病気、忌引、教育実習等については、公欠の手続きを取ること。欠席をするときは理由にかかわらず、教員に連絡をすること。

■授業への積極的参加（積極的な質問や発言、他の受講生の発表や講師とのやりとりからの学び、授業時間外における講師への質問、課題の提出回数、自主的な学習等）…60%（C・F・H）

■授業内における課題の内容における評価…40%（B・C・F・G・H）

受講条件(履修資格)

■「言語としての日本手話」(IA/IB・IIA/IIB)「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を単位
取得済であること。